

熊本大学医学部附属病院

研修医 近藤 匠 2015年7月

熊本赤十字病院研修医2年次 近藤匠です。大学を卒業したのち2014年4月から2年間の初期臨床研修が始まり、熊本大学医学部附属病院のたすきがけプログラムに参加し、1年間熊本大学医学部附属病で研修を行った後、2015年4月から熊本赤十字病院で研修を受けています。

今回、7月から始まった出水市での地域医療研修に参加し、高尾野診療所、野田診療所をそれぞれ1週間、出水総合医療センターで2週間研修させて頂きました。

高尾野診療所での研修では主に外来診療と在宅診療を経験しました。普段の研修では経験する機会の少ない外来での接し方について経験することが出来ました。また、近くにある特別養護老人ホーム「たかおの」の訪問診療にも参加し、入居者されている方々の健康状態をチェックし、必要に応じて薬剤の処方を行いました。地域医療の中でも高齢者医療は重要な領域を占めており、今回の研修を通して普段から住民の方々の状態を確認することで病気を早期診断、早期治療に取り組むことができると感じました。

野田診療所での研修では、主に外来での心エコー検査、腹部エコー検査、上部消化管内視鏡検査を内村先生の指導のもとで行いました。さらに、外来を新しく受診された方の問診、診察を行い、どのような検査を行うかという方針について自分で検討し、実施する機会を得ることが出来ました。診療所での検査であるため、血液検査、レントゲン、心電図、エコーなどの検査方法が限られていることもあり、いかに問診と診察の段階で状態が重篤なものかどうかを判断しなければならず、プライマリ・ケアの実践という意味では特に貴重な経験となりました。5日間という短期間の研修でしたが、その中で検査技能が以前よりも上達したことを感じました。また、訪問診療では職員の方々と車に乗り、遠方の住民の方々の健康管理を行いました。

出水総合医療センターでは、循環器内科を2週間研修し、紹介患者の問診と診察や、冠動脈造影検査、心嚢穿刺を見学させて頂きました。救急当直では地域の基幹病院であるため、多様な症状を訴える患者がwalk in、救急車で来院されており、自分の専門科以外であっても診察、検査を行ったのちに入院させるか外来でフォローするかなどを判断する場面が多かったです。来院患者の状態に応じて対処するための幅広い知識を持ち、状況に応じて適切に専門科へ相談できる密な連携を取れているかがいかに地域医療で重要か改めて感じる実習でした。

最後に、お忙しい中指導して下さった先生方、コメディカルの方々および今回の研修に携わって下さった方々に心よりお礼を申し上げます。